ボローニャにて―１０―

◆2 月も終わりというのに、ひどい日だった。その朝、日本に郵送する郵便小包を抱えて建物を出た瞬間、雨が降り出した。急いで部屋に帰って折り畳み傘を持ち外でさしたら、柄の部分を傘の部分が一気に壊れ、バラバラになってしまった。壊れた傘をゴミ箱に捨て、小包を抱えて一気に郵便局まで走り、整理券を受け取り順番がきた。今日の担当は、エリザベスだ。しかし日本という外国への小包の送付についてはほとんど経験がないらしく、色々と書類を見たり同僚に聞いたりしながら作業を進めている。この点、ブロンソンやトータルリコールのほうが慣れている。彼らが担当の時には記入しないでもよかった納税者番号を書いたり、日本語で書いた日本の宛先をアルファベットに書き換えるように云われたり、これまでなかったことだ。やれやれと思いながら、云われるようにした。そうこうしているうちに、エリザベスがいきなり、こんどのヴァカンスに私たち、日本に旅行に行くのよ、っと話しかけてきた。あっそーですか、で、日本のどこに?…まだ決まってないけどね、などと会話をしながらようやく終了。今回は約 27€でした。最近は外国人である私にも、通常のスピードと言葉遣いで話してくる。勿論その全部は分からないが、聞き直すと大体内容が分かるようになってきた。今回も辞書なしでなんとかできた。

さて、外は雨だ。郵便局に隣接している coop にいって折り畳み傘を購入しよう。だが、見つからない。そうなのだ。考えることは皆同じで、売り切れになっていた。仕方なく、女性用と思われる茶系統の長い傘を 5€で購入し、すぐに袋から取り出して外に出た。もう雨は上がって晴れ間が見えていた。仕方がない。また使う時もあろうと思い、ステッキ代わりにしてバスに乗った。というのも朝食を取っていなかったので、そのまま due torri 近くのいつものマクドナルドに行って軽く食べようと思ったからだ。しかしこれが間違いだった。

いつもの Rizzoli バス停で下車。ポルティコの下を歩いていると、病気の子供たちへの支援団体が絵葉書を売りながら寄付集めをしていた。それにつかまってしまった。

早いイタリア語でまくしたてられつつもおおよその内容を把握し、内容には賛同したので寄付(絵葉書の購入)をすることにした。最初 5€札を出したが、そこで大失敗。その日、郵便局に行ったついでに大家さんに渡す来月分の家賃をおろして、札束が財布に入っているのを見られてしまったのだ。そのボランティアの男性はそれを見て、色々と食い下がり、他の人から受けた寄付額も示しながら、とうとう私から 30€受け取ることに成功した。しかし、それでもまあ何とか我慢をして、良い寄付をしたと自分を納得させて 2、3 歩あるいたところ、

別の女性につかまった。今度は Ospedale Maggiore(マッジョーレ病院)の女性医師という。彼女は子供の義足の寄付を集めていたのだ。私が、先ほどの男性に寄付をしたと云ったら、彼らとは全くの別グループで、別の活動だという。同じような服装をしているのに。で、彼女も食い下がり、私から 50€せしめようとしたが、なんとか頑張って 20€寄付して終わりにした。変な領収書をくれて、これを大学に出せば、日本でいう税金の還付を受けられるという。でも私はこちらで収入もなければ税金も払っていないので関係ないが。無理やり領収書を渡され、明日その病院で子供たちのための小さな festa があるから、来てくれれば私もいるから、という。とにかく合計で 50€寄付してしまった。

その後、マクドナルドに行き、顔見知りのイタリア人店員に事の次第を告げ、意見を求めたところ、この団体や活動自体は本物であるが……要は、払い過ぎとのこと。通常はやはり 5€くらいが相場らしい。私が 2 団体合わせて 50€と云ったら、他の店員も聞きつけ、皆大きなため息。troppo tanto!!(多すぎる!!)であった。イタリアでは、この手の行為が多いから気をつけるようにとの忠告付きで。私としては、確かに多く寄付しすぎたとは思ったが、それでも一応は本物の慈善活動であったことだけが救いであった。そのイタリア人店員(男性)は、私に同情したのだろう、私が通常 5.7€位するセット(こちらではメニューmenu という。日本のメニューは lista である。)をガッカリしながら注文したら、ベーコンチーズバーガー分の 3.5€だけ受けとって、あとのポテトやドリンク、ケチャップ 2 つは無料にしてくれた。ありがとうとお礼は云ったが、ちょっと情けなくションボリしながら遅い朝食を済ませた。

天気は晴れて良くなったが、この日は全てどんよりと見えた。二度あることは三度あるという。三度目が起きないように気をつけよう。

◆今日も日本へ小包を郵送するために郵便局に来た。担当はブロンソンだ。先日のエリザベスは納税者番号を書けだの、日本語で書いた部分をアルファベットで書き直せだのうるさかったので、今回は受取人の部分をアルファベットで書いて持って行った。ところがブロンソン曰く、日本への小包なら受取人の部分は日本語で書いた方が間違いなく届くよ、別の紙を横に貼るから日本語で書いて、とういうのだ。エリザベスとは全く逆。ようはアルファベットと日本語の併記にしておけばよいということだが、なんとも手間のかかることだ。

もっと手間のかかることと云えば、国際スピード便だ。いわゆる EMS というやつだ。日本の郵便局では、これが一番早いと云っているようだが、確かにイタリアに届くまでは早い。問題は

イタリアに到着してから自宅に送付される期間なのだ。これが非常に長い。前回は確か 1 ヶ月近くかかってしまった。今回は日本の家族に、EMS ではなく普通郵便で、っとお願いしたのだが、日本の郵便局員の方が絶対に EMS といって譲らなかったそうだ。イタリア事情を全く分かっていない人に当たってしまったのだろう。お願いしたモノが必要な日時までに届くかどうか、いまは祈るしかない。何といっても帰国まで 1 ヶ月を切ってしまっているのだから。

◆3 月に入って初心に戻り Antonio Cicu に頻繁に来ている。最初は学生もまばらだったが、最近はまた込み始めている。ほとんどが試験勉強で、研究ではないが、学部生なので仕方ないだろう。研究所の方は未だ閉鎖中である。図書館でイタリア語の憲法の本を再び読み始めた。入国したての頃はサッパリ分からなかったが、今では相変わらずその表現の面倒臭さは残っているものの、内容は大体分かるようになってきた。自分でも驚いている。イタリア語の表現の方法や表現形態に慣れてきたのだろう。やはり慣れというのは必要なことだ。しかしまだるっこしい言語だ。

◆イタリア語と云えば、先日、道場で 30 代の女性柔道家と話していて、いきなり Ti amo なんて言ってないでしょうね!?っと聞かれた。直訳すると I love you だ。でも親子や孫などに使う時は文字通りの意味だが、他人同士だと、「性的関係を持ちたい」(かなり表現を温和にしているが)という意味になるそうだ。また男性が女性を夕食に誘って、レストランを出た時、sedere(臀部)を手で触れたら、「これから性的関係を持ちに行こう」というサインなのだそうだ。それを知らずウッカリついて行くと……ひどい目に合うから注意、特に日本人女性は人がいいので注意すること!だそうである。それなら一般に「好きだよ」って何ていうのかと聞くと、Mi piaci、英語だと I like you だ。そういえばこのような意味とは知らず、調子付いて知り合いの独身女性に ti amo などと云ってしまった記憶がある。彼女は笑って grazie と云ったあと、でもあなた結婚しているのでしょう?とも聞かれた…リップサービスのつもりだったが、今から考えるとかなり際どかったのだ。用心しなくては。

◆三度目が起きてしまった。完璧に騙された。170€をまんまと騙し取られてしまった。帰国が近づいて気が抜けているのだろうか。

ことの起こりは、私がバスを待っているときに、ぼろ車に乗った学生らしき男性が目の前で停まり、空港はどこかと聞き始め、そのうち自分はスペインから貧乏旅行をしている大学生だが、ここにきて資金がほとんど尽きかけている、できればこのビデオカメラを買ってくれないか、といって sony 製の新しいビデオカメラを提示し、それを購入したお店の領収書や品質保証書なども提示し、付属品を含めて新品を定価で買うと約 600€だが、自分が使用したから中古値段でいいから買ってほしいという。いくらかと聞いたら 400€、でも色々といって値切った。そして 170€で交渉終了。170€でもそれでなんとか帰国できるというのだ。私も一応は大学の教員なので、自分の勤務先の学生が海外でもしこうなったらという思いと重なってしまい、同時に実際に私もビデオカメラが欲しかったので、つい現金と物品を交換してしまった。で、バスの中で包みを開けると、ビデオカメラではなく、「塩」の箱が小さなバッグに入っていた。つまり騙されたのである。私もビデオカメラから目を離さなかったのだが・・・・・・正直なところ、まさにプロフェッショナルな技だと、少し関心してしまった。本当は立腹しなければならないのだろうけど、

あまり腹が立っていないのは、その手際の良さを体験できたことと、とにかく帰国まで 1 ヶ月も無いという変な余裕からなのだろうか。単に掏りにあったとか、物を盗まれたとかいうのではなく、犯人との遣り取りがあり、私も頑張って値切ることができたという、これも変な満足感もあったのだろうか。でも相手の方がうわ手で、結局は騙されたのである。迂闊であった。

ビデオカメラと思いきや、塩でした・・・・・・・(恥)。

　このことを柔道場の師範やその奥さんに話したら…お気の毒さま、である。イタリアではよくあること。騙された私の方が悪いのかもしれないが、塩ではなくチョコレートぐらいだったら、とも思う。イタリア語学校の先生から、あなたはイタリアで生きるには人がよすぎる(troppo gentile)と云われたことを思い出した。正直に生きて損するより、騙しても得して生きる方が賢い人間であるという価値観の国なのだ。しかしそれは間違っていると思う。このような国だから神(キリスト教)にすがらないと生きられないのだろう。考えてみれば哀れで悲しい国・人々なのだ。光も出口も無いような社会だ。この国で生涯を生きようとは思わない。それでも、この状態の方がはるかに良いと思って祖国を捨てて多くの移民がやって来る。この国よりひどい状態の国ならば、私も移民になるだろう。移民に丁度良い程度の社会なのかもしれない。しかし結局は一杯食わされたのは私なのだ。これからの日常生活や食費などを再考しなければならない。前回は連続で計 50€、今回 170€、合計 220€、下手すると 1 ヶ月の食費になるくらいだ。やはり私が間抜けだったのだろう。でも帰国前の厄落としと思って諦めることにした。日本の家族からはさんざん小言を云われた。

◆久々の快晴の土曜日だ。この際、朝日にあたって悪い運気を払拭しようと勝手に決め、Piazza Maggiore に面した bar に行って、まだほとんど空席だらけのテラス席に座った。ちょうど朝日にあたっている場所だ。黙って座っていると店員が来て注文を取ってくれる。朝なので cappuccino と cornetto を頼んだ。マクドナルドで同じものを頼むと、1.70～2€だが、この bar は立地条件とテラス席と云うことで割高である。と云うより 2 倍である。cappuccino は 3€、cornetto は 2€、合計で 5€であった。coperto も商品の値段に含まれているのだろう。

テラス席は夕方撮影したもの。

朝日の中の cappuccino と cornetto。

料金は、店員が品物を持って来た時にすぐに支払ってしまう。故に席を立ちたいときにすぐに発てるのだ。他の bar のテラス席には座ったことがあるが、この Piazza Maggiore に面した席は初めてだ。思った以上にとても気持ちが良い。行き交う人々や周りの景色を眺めるだけで時間がすぐに経ってしまう。一応 PC を持ってきていたが、こんな気持ちの良い場所で仕事などできない。なによりもきちんと「座れる」というのが魅力的なのだ。この街では、公園を除いて、地べた(石)の上に座るか、お店に入る以外にゆっくりと座れる場所がない。テラス席もお店に違いないが、野外で清潔かつゆっくり座れる唯一の場所だろう。10 時 30 分から 11 時 30 分くらいまで一人で座っていた。

とても気持ちがよかったので、夕方 16 時 30 分から 17 時 30 分くらいにかけて、また来店し、テラス席の同じ場所に座って人々や周りの様子を cappuccino 一杯でしばらく眺めていた。店員も私を覚えていたようで、ニッコリ笑顔で迎えてくれた。全体的に見るとアジア系の人間がこのようなテラス席に座るのはあまり多くないようで、いるとしたら観光客としての日本人くらいのような気がする。そこに堂々と手ぶらでアジア系の男性が一人で座ってのんびりしていたのだから、珍しかったのかもしれない。まあ良しとしよう。

commessa(女性店員)に撮ってもらった著者近影。テラス席で気持ちはよいが外であることに違いないのでとても寒い。これで嫌なことが払拭されるとよいのだが。

Piazza Maggiore でいつもパフォーマンスをしている人。色々な姿勢で 15 分から 30 分くらい動かないでいる。非常に強い身体を持っているのだろうと、いつも感心して見ている。

帰国までのカウントダウンが始まっている。ちなみに EMS をインターネットで追跡調査したら、イタリアには非常に早く到着したが、国内ですでに 1 週間も保管中のままだ。いつ配達させるのか不安である。

(続)